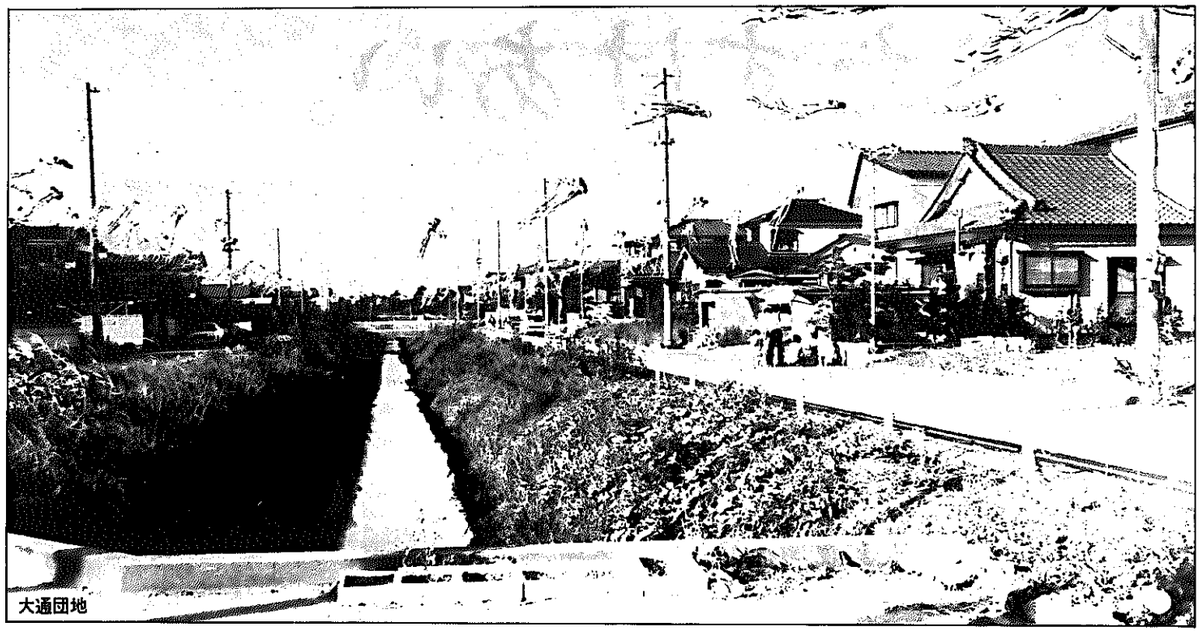
クローズ・アップ 住居表示

楽しい手づくり祭りが生まれました。大通団地で八月十五日、〝ふるさとを子供たちに〟をテーマに、東町内会、西町内会を一つに結ぶ「大通祭り」が、住民の手で企画、実行されました。住民同士の友愛を大切に、新しい伝統づくりに取り組んでいる同団地ですが、住所となると東が大字鷲ノ木新田、西が大字下塩俵と二つの顔を持っています。これらの整理をはかることが、そこに住んでいる人たちの願いであり、また、行政としての課題でもあります。今月は、来年の二月一日からの実施に向け、地元と話し合いを進めている住居表示について、スポットを当ててみました。


大通団地

いきいき大通団地で来年二月実施へ

「大字」名を新しい町名に変更

『はがきで市長と話そう』や『市政懇談会』でも、「市街地は、町名と住所番地が複雑に入り組んでいてわかりにくい。だれにでもわかるように新住居表示を実施してほしい」という要望が寄せられています。

こうした生活上の不便、非能率化に対しての市民要望に応えるため、市では今年度から住居表示を実施していきます。今年度は、地元からの要望の強い通称「大通団地」（約九㌶）で、来年二月一日から実施できるよう、現在地元と話し合いを持ち準備を進めています。

また、五十九年度からは市街地についても整備していく方針です。

番地の乱れをスッキリと

私たちが現在使っている番地は、明治四年に地券制度という形で税金を課す目的のために、土地そのものにつけられたものです。区域を定め、一番から順序よく番号をつけていました。

その後、土地の分合筆、道路の新設・拡張などから番地の順序が乱れ、同一地番の住宅ができたり、飛び地や欠番ができています。もともと住所を表すためにつけられたものでない地番や町名で、住居を表示してきたため、「郵便、電報が遅れたり、間違って配達される」「訪ね先がよくわからず、訪問者がとまどう」などの弊害がでています。

住居表示は、こうした弊害をなくすための制度で、今までの複雑な町界や町名などを整理し、だれにでもわかりやすいよう、建物に順序よく番号をつけて住居を表示するものです。

住居表示の方法は

住居表示を行う方法は、まず、町の境を道路、鉄道、河川、水路などの恒久的な施設で区切り、はっきりさせます。町の区画や町名は、皆さんにとって大変関心のあることですので、地元の人たちと相談して町の区画や町名の選択は慎重に行います。

また、町名には歴史的に由緒のあるもの、長年親しんできたものなどもありますので、なるべく従来の町名に準拠し、しかも制度の主旨をそこなわれないものを選ぶなどの配慮をしていきます。

町の区域が決まると、道路などによって更に細かいブロック（街区）に分けられます。各街区には順序よく番号がつけられますが、この番号を街区符号と呼びます。【図1参照】

次に街区の回りを十～十五㍍の間隔で区切り、順序よく右回りに基礎番号をつけます。各建物の番号は、その建物の出入口が基礎番号の何番のところにあるかによって決められ、これを住居番号と呼びます。【図2参照】住居番号は将来にわたって変わることはありません。

表示板でわかりやすく

住居表示が実施されると、各街区の街かどの見やすいところに街区表示板が取り付けられます。また、家の出入口にも、住居番号表示板がつけられ、住居がだれにでもわかりやすくなります。

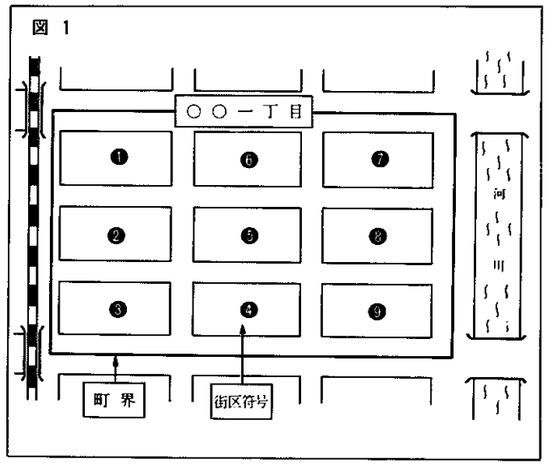
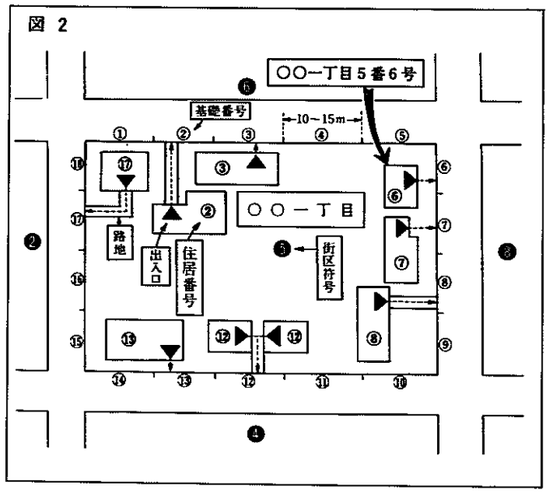
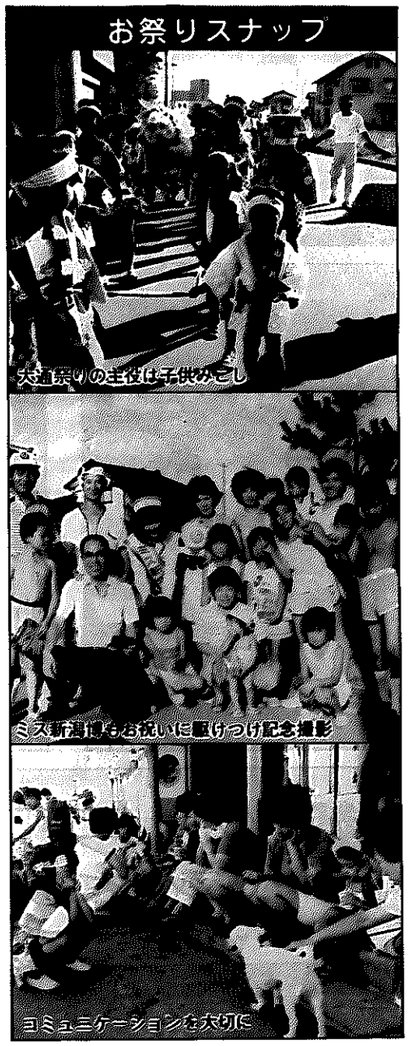
実施後の住所の表し方は、町名と街区符号、住居番号を組み合わせて次のように表します。

□今までの表し方
白根市大字〇〇何番地何

□新しい表し方

新町名	街区符号	住居番号
白根市〇〇何丁目	何番	何号

ただし、不動産の表示は「大字」名が新しい町名に変わるだけで、従来どおりの地番はそのまま残ります。

× × × × × ×

住居表示は、新しい町づくりの一環として行うものです。皆さん一人ひとりの積極的な協力がなければできません。この制度をよく理解していただき、ご協力をお願いします。